

平成31年度 学校経営計画書

石川県立金沢泉丘高等学校（全日制課程）

学校長 宮本 雅春

1 教育目標

心身一如の発達につとめて

真理を求め、勉学を第一義とすること

情操を豊かにし、自らの品位を高め、他者の人格を重んずること

正義を愛し、誠実にして、社会から信頼されること

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 本校は、創設以来「心身一如」を校是とし、調和のとれた人材育成に取り組んでいる。「確かな学力」を身につけさせるとともに、次世代を担う心身共に健全で品位と良識あふれるリーダーの育成をめざし、保護者や県民から信頼される学校づくりを進めている。
- ② 大学進学に関して、県内有数の進学校としての実績を収めている。世界を視野に高い志を掲げて学習させるとともに、第一志望を実現させることをめざしている。
- ③ 平成15年度にSSHの研究開発の指定を受け、さらに平成28年度に四期目（5年間）の指定を引き続き受け、国際的に活躍できる科学技術系人材の育成をめざしている。
- ④ 平成27年度にSGHの指定を受け、グローバルな社会課題に関し、探究型学習を通して多面的に考え、多角的に行動する力を備えた、国際舞台上で活躍する人材の育成をめざしている。
- ⑤ 平成24年度に「いしかわニュースーパーハイスクール」の指定を受け、人文科学、自然科学の両分野における幅広い教養を身につけ総合力を備えた、国際性に優れた次世代を担うリーダーの育成をめざしている。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 「確かな学力」の育成
進学実績の向上をめざし、確かな知識に基づいた深い学びにつながる質の高い教科指導を、ICTの活用や主体的・協働的な学習方法を取り入れながら、組織的に展開する。
- ② 豊かな心の育成
「心身一如」の具現化に向けた有意義な体験が展開されるよう、部活動・学校行事・社会奉仕活動等の教育環境・設備を整え、次世代を担うリーダーに必要な人格の陶冶をめざす。

(3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ① 指導力の向上と組織の活性化
より効果的な教育活動を展開するために、研究授業や職員研修会をとおして教職員の指導力を高める。また、組織運営の合理化・効率化を推し進めることにより、教職員がワーク・ライフ・バランスを維持し、活力と創造力を十分に発揮することのできる職場環境を形成する。
- ② 開かれた学校づくり
本校の方針や特色ある取り組みを、積極的に県民に伝え、広く協力・支援が得られる学校とする。また、PTAや地域社会とも連携することによって、本校の教育活動が有機的に展開することをめざす。

3 今年度の重点目標

創立126年目を迎える歴史と伝統を踏まえ、建学精神に基づいた教育活動の実践に努める。

- (1) 「勉学を第一義とする」をふまえ、質の高い学力を育成する。
・一時間一時間の授業を重視する。指導法の研究・改善に努める。生徒の高い進路志望の実現を図る。
- (2) 探究活動の進化・発展及びその記録について研究を進める。
- (3) 「品位を高め、他者の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。
・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、部活動・生徒会活動の活性化に努める。
- (4) 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。
・保護者懇談会、授業公開の機会の拡大を図る。地域社会と連携したボランティア活動を推進する。
- (5) 組織運営・教職員の働き方の改善により、教育活動の効果を一層高める。
・効率的で密度の濃い学習活動、部活動・生徒会活動の推進に努める。

平成31年度 自己評価計画書

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 「勉学を第一義とする」をふまえ、質の高い学力を育成する。 ・一時間一時間の授業を重視する。指導法の研究・改善に努める。生徒の高い進路志望の実現を図る。	① 各教科での研究授業や自教科・他教科の授業見学などを通して、また生徒による授業評価なども参考にしながら、授業の質的な向上を図り、授業改善に取り組む。	教務課	校内研究授業を各教科年1回実施し、他教科への授業参観も積極的に参加を促している。また、ICT機器の効果的な活用や主体的・協動的な学習方法を取り入れ、思考力・判断力・表現力の向上につながる授業の改善・充実を重視している。これにより新テストへの対応もねらっている。 昨年度12月の生徒による授業評価で、「授業が充実しているか」の全体平均値が3.56であり、達成判断基準による評価はAであった。 今年度もB、C、Dの判断基準をそれぞれ0.05上げるとともに、昨年に引き続きA評価となるよう努力していきたい。	【満足度指標】 生徒の授業に対する満足度が高まる。	「授業が充実しているか」の質問に対して、以下の①から④と答えた生徒の割合を算出し、順に4、3、2、1を乗じて、その値 α を算出する。 ①「よくあてはまる」 ②「ややあてはまる」 ③「あまりあてはまらない」 ④「まったくあてはまらない」 α の値が A 3.55以上 B 3.50以上 C 3.45以上 D 3.45未満 ※ 4段階評価の基準 ・よくあてはまる …4点 ・ややあてはまる …3点 ・あまりあてはまらない …2点 ・全くあてはまらない …1点	C・Dの場合、授業改善に向けた取り組みの再検討を行う。	生徒による授業評価を実施
	② 基礎学力の充実を図りながら、適切な模試や大学入試の分析の提供、学部別の説明会等を実施するとともに、難関大学を志望する生徒の意欲をさらに高める取組を、他室と連携しながら実施する。 特に、3年生にはきめの細かい指導ができるよう、入試情報や模擬試験のデータ処理・分析等を工夫する。また、集団として受験に臨む意識を高める取り組みを行う。 2年生には、高い志を持つとともに新テストにしっかり対応できるような集団作りを行う。 SSH室SGH室等と連携した取組を工夫して行う。	進路指導課	東京大学の現役合格者は、引き続き10人以上を目指したい。 3年生の難関10大学志望者数は246名と例年並みである。模試の結果をみると、平均偏差値は結果が良かった2年前と同等で、最上位者数も多い。 2年生の進路志望調査の結果は例年とほぼ同じで高い志望を維持している。	【成果指標】 受験集団としての意識が高まり、東京大学・京都大学・国公立大学医学部の合格者が増加する。	東京大学・京都大学および国公立大学医学科合格者の合計人数(重複可)が、 A 40人以上 B 30人以上 C 20人以上 D 20人未満	C・Dの場合、授業や3年間を見通した進学指導について、再検討を行う。	次年度の当初に入試反省会・検討会を実施

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
	③ ホーム担任は担当生徒に対し、年間6回以上の個別面接指導を実施する。また、学習時間調査の結果も踏まえ、家庭学習の定着を図る。	1学年	新しい環境で、授業を中心とした家庭学習習慣の確立を図っているが、例年、スマートフォンの使用に時間をとられ学習が疎かになる生徒が見られる。	【満足度指標】 個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上する。	一年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	C・Dの場合、より効果的な個人面接指導のあり方について再検討を行う。	生徒によるアンケート調査を実施
	④ ホーム担任は、年間5回以上の個別面接指導を通して、高い進路志望の確立を図る。また、学習時間調査の結果も踏まえ家庭学習の定着を図る。	2学年	高い学力を有し、地道に努力している生徒が多数いる一方で、苦手教科を有しその克服に苦労している生徒、学習習慣が十分に身につけていない生徒がみられる。 また、将来の目標が定まらず、志望大学についても未定の生徒もみられる。	【満足度指標】 個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上する。	一年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	C・Dの場合、より効果的な個人面接指導のあり方について再検討を行う。	生徒によるアンケート調査を実施
	⑤ 授業内容をより充実させるとともに、放課後補習および個人添削等を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を展開していく。	3学年	1・2年次は学習習慣の定着と基礎基本の徹底を柱に指導してきたが、部活動との両立に悩む、家庭学習の時間を確保できない生徒が見られた。校外模試では成績上位者がいる一方、伸び悩む者もあり成績の二極化しつつある状況となっている。2年2月で東大志望者35名、京大56名、医学科34名、その他難関大155名となっており、生徒一人一人の進路志望の実現に向けてさらに高い学力を身につける必要がある。	【成果指標】 個に応じた指導により、第一志望の大学への進学が実現する。	難関10大学及び国公立大学医学部医学科の合格者数が、 A 100名以上 B 90名以上 C 80名以上 D 80名未満	C・Dの場合、授業や補習、個人添削等の方法について、再検討を行う。	次年度の当初に入試反省会・検討会を実施
2 探究活動の進化・発展及びその記録について研究を進める。	① カリキュラムの中の科学的な課題研究活動を充実させることで、生徒の探究力・思考力・行動力の向上を図る。また、探究活動の評価や成果を蓄積し、個人が振り返りできるファイルの作成に取り組む。さらに、普通科普通コース理型クラスの課題研究活動については、より探究活動を意識した取組を実践する。	SSH推進室	SSHの取り組みは4期目から全校生徒を対象としており、理数科だけでなく、普通科へ広げる取り組みを進めてきた。4期目ではSSHの主対象である理数科、普通科普通コース理型の生徒が課題研究活動に取り組む、科学的な体験活動を行うことで、科学に対する興味・関心や進路に対する意識が高まりつつある。しかし、探究活動の評価については、個人レベルでの蓄積がなされておらず、生徒自身が自らの変容を振り返る機会がないことが課題である。また、普通科普通コース理型クラスにおける課題研究活動は、実験活動に留まっており、探究活動に対する生徒の意識を高める必要がある。	【満足度指標】 SSHの取組で探究力・思考力・行動力が身につく。	『『AI課題研究Ⅰ』（1年）『AI課題研究Ⅱ』『SS課題研究Ⅰ』（2年）『AI課題研究Ⅲ』『SS課題研究Ⅱ』（3年）は、「探究力、思考力、行動力を高める機会になっている」の項目で、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答するSSH主対象生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、計画の再検討を行う。	生徒によるアンケートを実施
	② 大学入試制度改革や学習指導要領改訂などを視野に、カリキュラムマネジメントの視点から、課題研究を中心とした探究的学習のプログラムの改善を図り、持続可能かつ発展的な探究型学習の指導方法を確立する。また、探究活動の評価方法や成果の蓄積などポートフォリオに対する研究も進める。	SGH推進室	SGH事業も5年目となり、高校3年間を通じたカリキュラムやプログラムについては、ある程度確立してきた。その結果、探究的な学習が生徒のみならず、教員にも標準化しつつあるといえるが、その質については、発展の余地がある。ここまで進めてきた中で見えてきた課題について改善を図り、教員集団が、より良いものになるよう工夫していくことが必要である	【満足度指標】 SGHの取り組みで思考力や表現力、他人と協働する態度が育成できる。	「SG探究基礎」（1年）や「SG探究」「NS探究α」（2年）「SG探究活用」「NS探究β」（3年）は、自らの考えを臆することなく論理的に表現し、合意形成をする能力を高める機会となっているという項目で、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」とする生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、内容の再検討を行う。	生徒によるアンケートを実施

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 「品位を高め、他者の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。 ・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、部活動・生徒会活動の活性化に努める。	① 各種の講演会を生徒の発達段階に応じて適正に開催し、品位を高め心豊かで、グローバル人材となる資質を育成する。	総務課	昨年度10月に「生き方講演会」（アニメーター・アニメ監督 米林宏昌氏）、11月に2年生を対象に「社会人と語る会」（本校卒業生12名）、2月に1年生を対象に「人権教育・国際理解講演会」（増山仁氏）を実施した。講演会後の生徒アンケートでは、92%の生徒が「満足している」という結果が出ており、ここ5年間は、80%を超える高い評価となっている。	【満足度指標】 講演会を積極的に評価している生徒の割合が大きい。	「講演会が知識や経験を学び、生き方を考える良い機会となっている」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、次年度に向け、講師の選定等を工夫する。	生徒へのアンケート調査を実施
	② 基本的生活習慣の確立を図ることを目的に、挨拶の指導を徹底する。 ・場面に応じた、元気で明るくさわやかな挨拶 ・授業の開始、終了の挨拶 ・職員室等の入室マナー	生徒指導課	登校時や校内（廊下等）では、自主的に挨拶をする生徒が増えてきている。しかし、来校者や地域の方々に対する挨拶については、まだまだ不十分であり、他者からみて好感がもてるとは言えない。	【成果指標】 しっかりと挨拶が出来る生徒が多くなる。	場面に応じた元気で明るくさわやかな挨拶ができていると答えた生徒が、 A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	C・Dの場合、HRや学年集会を通して、再度指導を行う。	生徒へのアンケート調査を実施
	③ 「いじめを絶対に許さない」学校づくりを推進するために未然防止の取り組みを行う。	生徒指導課	ふざけているつもりでのからかいやSNSでの不適切な表現などでの問題等がある。	【成果指標】 互いに認め合い助け合う仲間づくりができる生徒が多くなる。	他人の人格を重んじ、尊重する態度で接するとともに助け合う仲間づくりができると答えた生徒が、 A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	C・Dの場合、HRや学年集会を通して、再度指導を行う。	生徒へのアンケート調査を実施
	④ 部活動等の活性化及び競技力の向上を図る。 部活動と勉学の両立（文武両道・文武不岐）をめざす。	生徒指導課	部活動加入率は高く、意欲的に活動し、有意義であると答えている生徒が多い。 県総体総合成績において、4年連続第4位で公立校1位である。文化部では上位大会出場が増え、優秀な成績を収めている。	【成果指標】 生徒主体の活発な部活動により、上位大会に進出する部が増える。	県予選を突破し、ブロック大会以上の大会・行事等に出場した部活動が、 A 20以上 B 16以上 C 12以上 D 12未満	C・Dの場合、次年度へ向け、指導方法を工夫する。	県総体・総文等の結果報告による
	⑤ 環境ISO活動を意識して、環境保全に配慮した生活となるようにする。 ・ゴミの分別 ・学校周辺のゴミ拾い ・節水・節電	保健環境課	探究的な授業等において、環境保全に関するテーマでの研究発表が行われるなど、知識面では向上している。環境保全に配慮した生活を実践することが課題である。	【満足度指標】 環境保全を意識して生活し、実践している。	校内の環境保全活動に努めていると答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、取り組みの見直し・改善を検討する。	生徒へのアンケート調査を実施
	⑥ 読書と学習環境の整備に努め、学校図書館としての機能と魅力を高める。 委員会活動、購入図書の精選、広報活動、教科や調べ学習の場の提供などに努め、貸し出し冊数や入館者数の増加を図る。	図書課	情報メディアの普及による読書離れの影響は本校生徒にも見られるが、平成28年度まで続いた貸し出し冊数と入館者数の減少は、近2年間はともに増加に転じた。これは授業や調べ学習での図書館利用が増えたためであると考えられる。	【成果指標】 図書館の利便性が高まり、図書の貸し出し数が増えている。	1年間の図書の貸し出し冊数が、 A 4,500冊以上 B 4,000冊以上 C 3,500冊以上 D 3,500冊未満	C・Dの場合、取り組みの見直しと改善を検討する。	月毎の貸し出し数調査を実施
	⑦ 悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間の連携を密にしながら、生徒一人一人が希望を持って学校生活を送ることができるよう支援する。	教育相談室	学習面でのつまずきや人間関係の悩みや漠然とした不安感などを持つことによって、学校生活に対する意欲を失いかげたり、情緒が不安定になったりする生徒が見受けられる。	【満足度指標】 気軽に相談室を利用することで、精神の安定が保たれるようにする。	相談室を利用した生徒による学校評価アンケートの「気軽に相談でき利用しやすい」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、学年、関係各課室と連携して対策を検討する。	来室者へのアンケート調査を実施

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。 ・保護者懇談会、授業公開の機会の拡大を図る。地域社会と連携したボランティア活動を推進する。	① 保護者懇談会、PTA 活動、いしかわ教育ウィークなどを通して積極的に学校を公開し、保護者や地域住民との連携を強くし、開かれた学校づくりをめざす。	総務課	「PTA 総会」は 783 名（家族含むと 845 名）、「生き方講演会」に 72 名の保護者、いしかわ教育ウィークは 168 名の来校者があり、合計 1023 名であった。昨年の合計は 947 名で、昨年よりやや増加した。 保護者アンケートの「学校が開かれた学校づくりに積極的に取り組んでいる」については昨年同様 96%が高い評価をしている。	【成果指標】 本校の教育に対する保護者等の関心が高まり、学校公開への参加者が増える。	今年度の「PTA 総会」、「いしかわ教育ウィーク」・「生き方講演会」の保護者・地域住民の来校数が合わせて、 A 1200 人以上 B 1000 人以上 C 800 人以上 D 800 人未満	C・D の場合、PTA と協力して広報活動に努める。	PTA 総会 (5/12) いしかわ教育ウィーク (11/1~7)
	② 特別講義を一般公開することや、理科科 1、2 年生、SSH 委員、SS 部及び科学系の部所属の生徒が「金沢泉丘サイエンスグランプリ」、「創立記念祭における理科教室」等、自ら企画・運営・参加する機会を増やし、内容を充実したものとすることで、科学教育の面から地域に貢献する。	SSH 推進室	毎年理科科 1 年生が、「創立記念祭」に来校した小学生等に対して「理科教室」を開催し、参加者から好評を得ている。特別講義を一般にも公開し、地域の方や中学生が参加できるようにしている。また、地域の科学財団と「金沢泉丘サイエンスグランプリ」を共催し、高校生と小中学生が協働活動することで、科学教育の面から地域に貢献している。	【満足度指標】 SSH の取組を地域に還元できる。	「理科教室や金沢泉丘サイエンスグランプリに参加して、どう思いますか」という質問に対して「大変良かった」と回答する理科教室等の参加者の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・D の場合、次年度に向け、取り組みの改善を検討する。	参加者へのアンケート調査を実施
	③ 校内ネットワーク・ICT 機器の利用環境の保守・整備に努め、校務の効率化と教育活動への活用を支援するとともに、情報資産管理システムの適正な運用を図る。	教務課	個人使用ノートパソコンと共有パソコンの利用環境が健全に保たれ、SAM システムによってハードウェア台帳、ライセンス台帳、インストール台帳が整備されている。	【努力指標】 生徒・教職員のコンピュータ・ネットワーク利用環境が整備され、効率的利用が高まる。	教員に対するアンケートにおいて、「校内 LAN の整備やコンピュータ・視聴覚機器の利用環境の整備によって校務の効率化と教育活動の質の向上が図られている。」という項目のよくあてはまるとややあてはまるを合わせた割合が、 A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・D の場合、内容の改善を検討する。	教員へのアンケート調査を実施
	④ 「学年だより」、「進路だより」等を通じて、保護者に学校の様子を理解していただく機会を増やし、保護者の学校行事への参加拡大につなげていく。	1 学年 2 学年 3 学年	年 2 回ある「保護者懇談会」や、その他の行事に対する保護者の参加の数は高い。また、1 年次に「学校からのたよりによって、学校の様子がわかる」と回答した保護者は 86.5%であった。（2 年） 「学年だより」「進路だより」等は定期的に発行している。2 年次に「学校からのたよりによって、学校の様子がわかる」と回答した保護者が 78%であった。（3 年）	【満足度指標】 学校からのたより・通信等をとおして、保護者に学校の様子がよくわかる。	「学校からのたよりによって、学校の様子がわかる」と回答した保護者が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・D の場合、次年度に向け、内容の改善を検討する。	保護者へのアンケート調査を実施
5 組織運営・教職員の働き方の改善により、教育活動の効果を一層高める。 ・効率的で密度の濃い学習活動、部活動・生徒会活動の推進に努める。	① 業務の見直し、密度の濃い会議運営など組織運営の効率化、職場環境の改善、教職員の意識改革、時間管理の工夫等を進めることにより、教職員のワーク・ライフ・バランスをとり、教育活動の質の向上を図る。	管理職	進学校としての進路指導・学習指導、文武両道を目指す部活動指導、SSH・SGH を中心とした新しい時代の要請に応える教育活動の展開、創立記念祭をはじめとした生徒会活動への指導など、教職員に求められる業務が多種多様で、量的にも負担が大きい。業務改善、職員の意識改革をとおり、効率的で密度の濃い、そして質の高い教育を展開していく必要がある。	【満足度指標】 気力、知力、体力の面から、一層効果的な教育活動を展開できていると感じている教員の割合が高い。	ワーク・ライフ・バランスをとることにより、気力、知力、体力が充実し、一層効果的な教育活動を展開できていると回答する教員の割合が、 A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	C・D の場合、次年度に向け、内容の改善を検討する。	教員へのアンケート調査を実施

